



いずみさの昔と今 第337回

「池田谷久吉とその生涯」③ 池田谷久吉と蟻通神社

現在開催中の歴史館いずみさの秋季企画展「泉佐野の建築家―池田谷久吉とその生涯―」に関連して、今回は「池田谷久吉と蟻通神社」について紹介します。

蟻通神社は「和泉国神名帳」の中に「従五位上有通」と記載されているなど、その歴史は古く、地域の中心的な神社として現在でも多くの人に信仰されています。以前は紀州街道（熊野街道）沿いに鎮座していましたが、太平洋戦争中の昭和17（1942）年4月、陸軍省からの要請で泉佐野市に陸軍明野飛行学校佐野飛行場が建設されることとなった際に、移転を余儀なくされ、現在の位置に移されました。

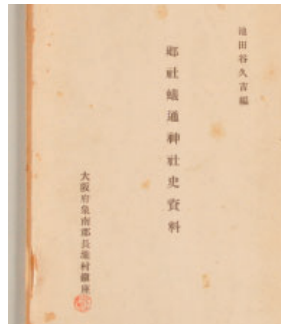
池田谷久吉は蟻通神社の歴史や姿を後世にも伝えていくため調査を行いました。そしてその調査結果をまとめたものが、同年10月に編さんされた「郷社蟻通神社史資料」です。その中には、蟻通神社の祭

神、境内にある石灯籠の金石文（金属や石に書かれた文）が記載されています。その他にも「枕草子」や「貫之集」に書かれた故事伝承や、境内周辺の関係史料についても書かれています。また、「建造物」の章では

「本殿建築の価値」という短い論考を書いており、「本殿の建築年代は寛文九年にしてよく桃山時代の豪華なる特質を備へ殊に柱、長押、斗組、墓股、虹梁等に施されたる極彩色の精密にして文様意匠の奇抜なるは大府内に於ても他に比有すべきもの少し」と述べています。

そして最後の「跋」(あとがき)には、学生時代の自分にとって蟻通神社がその周辺で一番好きな場所であったということや、紀州街道や冠の淵を見るたびに先述の紀貫之に関する物語を思い出すと述べています。また最後には、「思えばかぎりなきなつかしの思い出も今日を界として幕を閉じる事となった」と、移転前の蟻通神社と自身の思い

出が閉じることについて心のうちの哀愁を吐露しています。池田谷久吉は蟻通神社の調査だけでなく、神社移転に際しても携わっていました。今回の企画展では、当時の蟻通神社の姿を写した写真や、移転に際する図面などを展示しています。ぜひお越しください。次回は、「池田谷久吉と百濟寺跡」として、池田谷久吉の考古学者としての顔について紹介します。



▶郷社蟻通神社史資料
(歴史館いずみさの蔵)

レイクアルスタープラザ・
カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日
(いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館)
開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

日本遺産・葛城修験文化を巡る⑤ ～葛嶺雑記～

「日本遺産」に追加認定された「葛城修験 ― 里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介しします。

問合せ 文化財保護課



葛城修験の道場では、役行者が紀淡海峡の友ヶ島から大和川の亀の瀬までの山中に法華経二十八品を埋納した場所に、各地の修験者によって経塚が建てられました。葛城修験二十八宿を構成する経塚や道場の位置については、資料により多少異なりますが、現在の道場の位置は、嘉永3（1850）年の「葛嶺雑記（かつれいざつき）」をもとにして、犬鳴山修験道、京都聖護院（本山派）の人々の調査により確定されました。

この葛嶺雑記は版木を使った木版印刷でつくられており、葛城修験の行程をつぶさに記したガイドブックとも言える貴重な資料ですが、出版した和泉谷藤兵衛により寄進された当時の版本が、犬鳴山七宝瀧寺の修験会館に現在も所蔵されています。



▲葛嶺雑記

葛嶺雑記を所蔵する
犬鳴山七宝瀧寺 修験会館▶

